

【議事録】平成29年度第3回長井市公共複合施設整備市民検討委員会

日時 平成30年2月19日（月）13：30～15：20

場所 交流センターふらり：1階視聴覚室

出席者 20名

■概要

長井市公共複合施設建設整備基本計画（案）について、修正・追加部分の説明を行い、委員の方々から意見をいただいた。

本委員会としては、基本計画（案）について概ね了承することとし、この方向で進めていくことになった。ただし、屋内軽運動施設については、国の財政支援の活用可否を確認し、公共複合施設と一体で整備できるかなど建設方法を引き続き検討していくこととする。

内容

1. 開会（進行：事務局）

2. あいさつ

（委員長）お忙しいところご出席いただきありがとうございます。このような会議の際など少し時間が早かったりすると、車を停めて時間調整をしたりする場所がなかなかないのですが、今回の駅前の複合施設あたりが少し寄ってみようという場所になるのではないかと思います。別の会でしたが、商工会議所の青年部の方がこのまま人口減少が進み長井の経済が衰退していくのをただ見ているのではなく、何かを仕掛けなければダメだと強くおっしゃっておりその通りだと思いました。この駅前の事業も心配なところもあるかと思いますが、長井市の大きな仕掛けとなる事業になると思います。市民の皆さんに良い施設が出来たと思って頂けるように、皆様のいろいろなご意見が必要かと思います。限られた時間ですが、ご意見よろしく願いいたします。

（市長）皆様にはご多忙のところご出席いただきましてありがとうございます。大きく時代が変遷していく中で、人口減少・超高齢化により地方ではどんどん体力が奪われていっているところですが、私たちの次の世代、あるいは次の次の世代に長井がしっかりと潤って、この地域で生きていくと思って頂けるよう、希望のあるまち、夢を描いていけるまちにしていかなければならないと思っています。一昨日土曜日は文部科学省の委託事業という事で教育子育てフォーラムといたしまして講演会が行われました。長井はもともと教育に対しての市民の評価は高いのですが、さらに長井で教育・子育てをしたいと思っていただけるまちになるよう、英語教育やその基礎である国語力の強化、そして0歳児からの読み聞かせがいかに子どもたちにとって、そして保護者の愛情心もどんどん高まっていくことになるか。それが子供たちが将来、いろいろな困難に立ち向かった時に強い心を持ち、そして世界で活躍

できるように育っていけるように頑張っているところです。そして都市機能の大きな柱として、庁舎は少し足踏みをしています、必ずや3月には議会や市民の方からご理解を頂き前に進めると思いますし、今日は二宮先生をお願いをして全体のイメージ図も描いていただきました。グンゼさんと協薬さんの場所はそのまま残してありますが、グンゼさんと協薬さんの場所も一体となっていていろいろなご協力を頂ける土地もありますので、夢を描けるエリアにしていきたいと思っています。この公共複合施設は着実に来年から進んでいく事業となりますので、市民の皆様に喜んでいただいて、周りの市町からも来ていただけるような長井をつくっていくことが次の世代への大きな一助となると思いますので、皆様より忌憚のないご意見やご助言を賜りますようお願い申し上げまして、私からの挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

3. 協議

(1) 長井市公共複合施設建設整備基本計画（案）について

(事務局) 基本計画（案）について、追加、変更部分を中心に説明・・・

(委員長) 第1章、第2章についてのご意見をお願いいたします。

(委員) コンセプトをこのように書いていただきありがとうございます。このコンセプトの思いや背景など教えていただけますでしょうか。

(事務局) P7の黄色で記載している整備目的を中心に思いを込めて、コンセプトを記載させていただきました。

(委員) 紡ぐという言葉は長井紬からでしょうか？

(事務局) 長井らしさということで長井紬から紡ぐという言葉を使わせていただきました。

(市長) 子育て世代活動支援センターは何歳くらいまで対象のものなのか？

(事務局) 今までは小学生までとしていましたが、小学校高学年から低学年、幼稚園までと一緒に遊ぶのは危険であると委員の方からの意見を頂き、この施設ですべて年代を網羅することは難しいという事で、小学校低学年までを対象とさせていただき、小学校高学年から高齢者までは別棟の軽運動施設等で対応と計画させていただきました。

(市長) 軽運動施設は子育て世代活動支援センターの関連施設として整備できないのですか？都市再構築戦略事業では中学生くらいまでいいと思うのですが。なぜ軽運動施設を民間にしてしまったのか。

(事務局) 都市再生整備計画事業の補助要綱では、親を支援する施設が対象となっており、単なる運動施設、体育館は残念ながら補助対象外となってしまいます。

(市長) 拡大解釈はできないのですか？子育て世代というのは小学校低学年までではないと思う。少なくとも小学校高学年までは対象となると思う。軽運動施設は別棟ではダメだと思うが、一体であれば大丈夫ではないか。ただ、夜はほとんど子どもは遊ばないよね。だからそこは対象以外の人も使えますということできないのか。ここのところが、全国の事例とか聞いてみて、はっきりしないので。

(事務局) わかりました。そのへんは制度、あとはクロスしないでそれぞれが遊べるような工夫等を検討していきたいと思っています。

(市長) なぜかという、例えば小さいお子さん、小学校の低学年とか、就学前のお子さんとか。でも親は小学校の中学年、高学年がいる家族で遊びに来て、大きいおさんは遊べないじゃないですか。中学生はもう部活始まるので。これ自分の家族を考えると、高学年の子どもは連れていけない施設になる。図書館に行ってなさいとなる。やはり少なくとも高学年までは一緒に行動すると思う。中学校くらいになると子供と一緒にならないかもしれない。でも、高学年まではなるはずなんで、そこはもう少し突っ込んで、辻褄が合わなくなると思う。そこは重要なところで、もう少しはつきりさせないと高学年の子どもたちはどういう風にフォローするかが必要になってくる。

(事務局) そこらへんは調べて整理させていただきたいと思います。

(委員) ベにっこ広場には、遊具を設置しているところと運動するところが丁度隣り合わせであって、大きい子どもは運動場で遊べる、小さい子どもは遊具で遊べるとなっているが、長井市ではそういう風にできないのでしょうか？

(事務局) ベにっこ広場については、今回の公共複合施設とは補助金のメニューが違って、ある程度自由度があります。先ほども申し上げたとおり、高学年についても内容が良いのか確認して工夫させていただきます。

(委員) 小学生がどのくらいの範囲で遊ぶのか実際にわからないのですが、遊具は対象年齢があって、大きい子どもは遊べないというのがある。やはり体育館があるといいなというのと、体育館の中では親子でいろんなことを考えながら遊べるので、そういう空間はあって良いんじゃないかなと思います。遊具に対して遊ぶというよりは、自分たちで考えて遊べる場所があると良い。

(委員) ベにっこ広場は、体験の機会を増やしたいということで、親子の体験などをさせてもらっている。対象年齢を絞るというのはとても難しいと思う。小学校3年生までと言われると施設の利用が限られてくる。だから最初から年齢を絞ってしまうのではなくて、施設のメニューで選んでもらう。ベにっこ広場は親子でなければ利用できないので、先ほど子どもだけでは補助メニューがでないということであれば親子での体験の機会だと意味づけすればどうなのかなと思った。

(委員) 子どもたちは群れて遊んでいて、小学校の低学年も中学年も高学年も。大きい子が遊んでいることに小さい子も挑戦する。体験という点では学年を絞らない方が、せいぜい小学生までという枠組みの方が実際的で愛される施設になるのではないかな。

(委員長) この施設自体が誰でもちょっと遊びに来れる、中学生が自転車で来れる場所というイメージがあるが、そうすると、建物の動線を考えて配置をすると、いろんな世代が集まった時に、例えば中学生が自転車で来た時にどういう過ごし方ができるかということを組み込んでいく必要があるのではないかな。多世代が集まれるような工夫、それを基本設計の中で活かしていただく。ただし、事故等にも十分配慮しなければいけませんので、年齢別のゾーニングをどうするかを含めて十分にご検討いただきたい。

(委員) 子育て世代活動支援センターの親子交流機能に、子育て支援センターが入る想定をしているとお聞きしたが、子育て支援センターと明記できない理由があるのか。

(事務局) 子育て支援センターが、子育て世代活動支援センターの中に包括されているとい

う考えでよろしいかと思います。

(市長) 子育て支援センターが現在学習プラザに入っているが、そちらの機能も複合施設に持ってくる、なおかつ行政の窓口として「すまいる一む」や子育ての相談とか、そういった行政の相談機能も複合施設に持たせたいということですね。

(事務局) そのへんの業務機能をどこまで複合施設に持たせるのかということもありますし、持たせるのであれば職員の執務スペースも基本設計で検討していくということになるかと思います。

(委員) 基本的には特に指摘するところはないかなと思っています。年齢制限を持たせるかということに付随して、子供によっては小さい子供に合わせて遊べる子もいれば、自由に遊んで怪我をさせてしまう子もいるので、何年生までということはないかなと、小学生全般までみれるような形をとって、小さいお子さんには親が一緒について遊ばせるというのが理想なのかなと思います。

(委員長) 第1章、第2章につきましては大きな異論はでませんでした。大筋この方向でという委員の皆さんのお考えかと思っています。第3章について、先ほど全体的なお話はいただきましたので、イメージ図についてお話いただければと思います。

(受託業者) 配置イメージ図(案)について説明・・・

(委員長) 屋内軽運動施設が複合施設と別棟になっている理由はあるのでしょうか。

(受託業者) 前回までの検討と、補助メニューの関係で別棟になっています。両方合体ということであれば、それに合わせた構成がでてくるかと思っています。

(事務局) 都市再生整備事業で子育て世代の支援施設だと、あと限られた面積の中で、いろいろな内容を網羅する中で、屋内運動施設を同時期に施工するのは難しいということで別棟にしています。

(委員長) 屋内運動施設が後から整備されとしても、ここは連携していた方が良いと思いますので、渡り廊下があったほうがよいかと思っていますので検討お願いします。

(委員) 2つの施設が隣接したかたちで描いていただいて私は良いなと思ったところです。基本設計に入る前の参考意見として、図書館が入った複合施設のデータがあり、図書館との組み合わせで一番多いのが公民館で33%、子育て施設が13%、それぞれのメリットデメリットが分析されていまして、一般に言われていることとして、図書館と子育て施設のメリットとして、ついで利用率が高い、新たな利用者の開拓という点でも効果が大きい。デメリットとしては、小さい子どもたちは遊ぶことを目的に来ているのでテンションが高くなって、その勢いで図書館を利用すると一般の利用者の迷惑になることが起きやすいと言われています。だから、2つ離さないといけないということではなくて、つくりの方で工夫していかないといけない。空間、仕切り、クワイエットルームを設けたり、ゾーニングを工夫して幅広い世代に配慮していかないといけない。

(委員) 市民の方の生活度や文化度が上がっていくような施設であってほしい。良い刺激を受けると自分たちの生活が豊かになる、そういったことが増えていくとより良い生活空間、まちになっていくと思う。新しい図書館や子育て支援のかたち、いろんなことを追求できる空間にしてほしい。一般的な図書館だと本が並んでいて自分の目的にあったものを

探す。そういったことも必要だが、本に出会える図書館にしてほしい。とある大学の図書館は、本を知ってもらいたいということで、物語に関連した本が周りにある。自分が知らなかった知に出会える、そんなことも計画の中に組み入れられたらよいと思う。あと、ぜひギャラリースペースを作りたいと思う。市民の方の作品を展示する場所の確保はもちろん必要ですし、他の作家さんの作品で刺激を受けていく。そういった場所もあったら良いと思う。やはりギャラリーとなるとそれなりの設備が必要なので、組み入れられるかわからないが希望として。

(委員長) ギャラリーについては、長井市全体の施設の中で文化会館、長井小学校第一校舎、道の駅、長井駅など、長井市の文化をどう分担していくかということに繋がっていくかと思っていますので長井市としてご配慮いただければと思います。

(市長) 貴重なご意見いただきました。やはり多機能型図書館の多機能いろんな考え方があると思うが、文化度を上げる、教育の面で魅力を上げるなど。基本設計を組む段階では、いろいろとお伺いしたいと思います。長井小学校第一校舎はまだ決まっていますが、学びと交流の場として、美術館的なものもやりたい、そこにギャラリーを一緒にしたらよいのではないかという案と、ブックカフェなど少し図書館機能を置いたらよいのではないかというご意見もありますので、そこと駅前の複合施設どういう関連を持たせようかと考えています。あと、文化会館については、コンサートや音楽・演劇に特化した施設にして、ギャラリーなどの展示は別の施設にしたいと考えています。全体的に、長井小学校第一校舎や文化会館で賄いきれない市民の要望などを複合施設に凝縮したい。今回イメージ図を出していただき、とてもよかったと思います。個人的には、子育て世代活動支援センターと屋内運動施設は一体でしたい。民間のほうでやりたいとなるとこっちと一緒にのほうが良いかもしれませんが、屋内運動施設がないと家族みんなで、小さいお子さんから小学校高学年まで遊べる施設にならない。補助事業でできなかったから、あきらめるではなくて、民間と一緒にやろうかとか、贅沢できないけども市の単独でやろうかとか。つくる以上は、長井の施設はつまらないとか使いづらいといわれないようにしていかないと、せっかく皆さんに考えていただいたのにもったいない。内部で詰めながら来年度からの基本設計に活かしていきたいと思っています。

(事務局) ギャラリーについては、P26の共有機能として検討しています。

(委員) 設備はユニバーサルデザインの観点から検討していただきたい。シャワー設備など有料でもよいので検討していただきたいと思う。

(委員長) 発達障害のある子供さんに対する支援や相談ができる体制はどのようにお考えでしょうか。

(事務局) 現在、すまいるの一むでも専門の先生が相談対応・受付しておりますので、その内容を複合施設に含めるということで検討しております。

(委員) 現在図書館の職員が8名、そのうち10年以上のベテラン司書が4名おります。新しい図書館整備に対しても、行政側からも3年前から図書館整備に関する協力ということで求められてきました。これまで提供してきた資料や情報の内容を、今回の基本計画の随所に盛り込んでいただいて職員一同ありがたく、嬉しく思っております。小さい子供から高齢

者までの幅広い世代の多様なニーズに対応して、かつ交流を仕掛けていくような図書館ということを私は考えております。そういったことを描いている計画となったということで、それが実現すれば、しあわせに暮らせるまち長井の拠点、シンボルとなると私は思いました。幅広い年齢層が利用するのが図書館。多機能型図書館というのは、まさに長井のまちづくりに寄与できると思いました。この計画策定を通して、図書館がまちづくりに欠かせない。長井のまちづくりには重要なだと存在価値を認めていただいた、計画にしっかり位置付けていただいたことに感激しています。今後基本計画から基本設計に進んでいくうえで、蔵書数をどうするのか、ネット環境を使った情報サービスをどうするのか、書架や家具などもどのようにするのか、図書館のサービスや運営をどのようにするのか、詳細な計画についていつでも提供できるように準備を進めてまいりますので、行政にも図書館が頼りになると思われるように頑張っていきます。本当に素晴らしい計画ありがとうございました。

(委員) 対象が子供なので安全というのを第一に考えて進めていってもらいたい。一事故が起こってしまうと、あそこは危ないからと思われてしまうので、やはり安全第一で進めていってもらいたい。

(委員) 長井まちの拠点を作りたいという熱意、市長の理念を隣近所のかたにも伝えていきたい。皆さんで練った計画が実現することを願っている。

(委員) 長井に自慢できる施設があると良いなという思いを持ちながら検討委員を引き受けました。長井って面白いものがあるねと思ってもらえるような起爆剤になるものがないと大変だという思いもあります。詳しい中身については、仕事や経験されている方の意見を入れていかなければならないと思いますが、全体的にみて庁舎と一体となる設備ができるのは楽しみだと思っています。子供たちがいずれ大人になった時に、戻ってくるきっかけ思い出になるような施設になることが理想かと思います。今回イメージ図がでて、具体的に見えてきたので、今後もみんなで話し合っていけるようにしたいなと思いました。

(委員) 先ほど小さいお子さんがテンションあがってという話があったんですが、遊具の遊び方や遊び場のづくり方もあると思うので、そういう風にならないようなやり方も考えていかなければいけないと思いました。市外の方に長井のイメージを聞いたら文化的なまちだと言われ、うれしく思いました。長井らしさ、そうしたイメージを持った施設ができると良いなと思いました。あと、できた後の施設の運営も同時に考えていかないといけない。安全面は子供が集まる場所ですので、ソフト面など人材育成のところなども並行して考えていかなければいけないと思いました。

(委員) 子供がこの町でどういう風に生活していくかを考えると、魅力のある、刺激になるような施設になるとよいと思う。こういったことがこれからの子供たちの財産になると思うので、良い建物にしていだきたいなと思いました。

(委員長) 早くできればいいなと思われるような施設になるといい。図書館と子育て世代活動支援センターが融合する1+1が3、4となるような施設になると良いと思いますし、駅舎と一緒に新庁舎も同じようなところに建設予定ですし、2つの施設が核となって3、4倍の効果を生み出す、そんなことが実現できれば良いなと感じたところでした。なお、この基本計画につきましては、ご意見も大体だしていただいて、この方向でぜひ進めていただきたい

いという委員の皆さんの意見と承っております。最後に、市長さんからまとめていただければと思います。

(市長) 今年度あと1か月ちょっとで終わるわけですが、3回という回数的には今年度少なかったわけですが、様々なご意見、ご提言、あるいは期待、これからの未来に向かって子供たちの未来を作るようなそんな事業として捉えていただいてご議論をいただきまして厚くお礼を申し上げます。ありがとうございました。今回は3月で基本計画の策定をいたしまして、30年度からは皆様から引き続き委員として具体的な基本設計に入ってまいりたい。31年度から事業に入ってまいりますので、そこで実施設計やら着工やら進めていく予定でありますので、引き続きいろいろとご指導賜りますようよろしくお願いします。

最後になりますが、私もまず建物ありきではありません。長井にとって何が必要なんだろう、市民の皆さん、子どもたちは何を必要にしているのかということ、20～30年のスパンで将来のグランドデザインといいますか、長井市に新しい顔を作って、周りの5地区には小さな拠点をつくって、それぞれ地域が均衡ある活性化を図っていく。その核となるのが一つ複合施設になると考えております。長井は文教のまちと言われるよう、ただ弱い部分がでてきておりますので、まずこの施設を核に周りの商業施設、空き店舗や文教の杜などもありますので、そういったところも含めて、いろいろやるべきことはたくさんある、それにはハードありきでなくて、どういうまちにするかというソフトをまず皆様からお伺いしながら、それに必要なハードを整備していくというやり方ですので、必ず次の世代、子どもたちに残せる財産になると思っておりますので、来年度も引き続き皆様からお力添えをいただくとともに、委員長にも感謝申し上げながらお礼の言葉とさせていただきます。本当にありがとうございました。今後ともよろしくお願いします。

(委員長) 皆様より貴重なご意見いただきまして、おかげさまでこれからの希望を持てる基本計画となりましたことに感謝申し上げます。ありがとうございました。

(2) 今後のスケジュールについて

今後庁内で検討させていただき、策定に向け進めてまいりたいと思います。

(3) その他

4. その他

5. 閉会